

古今鉅盡

合類大全

字部
初學
校田經

古今諸書合類大全 卷上

番販活之次第

王春

○永年行大吏中納言俊當

則宗

△備前國福見人新船先と号偽犯系
呂不妻一の偽同黄穴の上偽小打伊模
下或ハ在妻二又云心先割以小切と内を
伊模と菊乃大に分半十六系と菊乃
中乃とべりいささあり

嘉事

○永年行二位儒林博士

貞次

△彼中國を以て人たる亮と号○張第
表目黄文乃下小打伊模と妻連張小内
妻方厚く少丸に之を黄の附に之を
と銀乃下市表小打と偽犯系墨妻

情明

○永年の大吏大長常報

延房

△彼前國福見人新船と号と又内は
○偽同黄穴乃上小切と偽へや小切と
伊模と張系一の先丸一萬方妻連と
一萬方小切とらと又黄の附に黄に
同黄穴の下に月と云々と云々とあり

梅月

頃より新中納言範家

四家

△栗田口位へ山藏と号。後同其穴の上福小打と号。換位をいふ。其の意。高き乃雨の意。上文字と打と文字。わらひは戸大連と云なり。

新中納言

頃より新中納言範家

恒決

△青江位へ福中と号。後常表月。其穴下福小打。伊達連。福小肉。又ハ少面。成るもさうさう。厚く解く。細く。元年山形或一文字に切て丸めたり。

光夏

頃より新中納言範家

四友

△栗田口位へ福中と号。後常表月。其穴上福中と号。又ハ少面。成るもさうさう。厚く解く。細く。元年山形或一文字に切て丸めたり。

光夏

頃より新中納言範家

四友

△栗田口位へ福中と号。後常表月。其穴上福中と号。又ハ少面。成るもさうさう。厚く解く。細く。元年山形或一文字に切て丸めたり。

南呂

○此書乃先親抄長四卷

次家

△此は後援成と号す。洛平表目其大
乃下平分けて抄し。速速彼肉より
方決角の公先山形又いね形一文字
切るとさうく大略ハ平山形と云
乃附ハ大心抄下て其の乃あるハ

書秋

△此は行二條約言難難 助家

△彼亦個又一文字候理亮と号す。洛平
表目其大乃上條小并書難難ハ
てし。助家能く三文字小并一文字計
も并難ハ九一。公先ね形又いね方
速速く一文字より切し。速速其の
大さ四文字あり

書英

△此は行軍お中抄英五

行四

△彼列後河内身と号す。洛平表目其大
乃上條小并平へさけて并の公さく
早一とく難ハ九一。公先ね形又いね方
山形速速ハ九一。并ハ九一と云

陽月

△此は行二条中納言と云。雅助成

△彼亦後長門と号す。洛平表目其大

穴乃上銘小并伊連連武ハ様下位
内又ハ中ハ丸もろろ先平山取又刻
彫もわり

臘月

山より又狀其三任

助迄

△福屋被後中も号す。後祥表洞英
穴乃上銘平ハ中ハ并銘連連並角
みりて内も公海平山取又刻頭

酉月毒

之四

△栗田口大隅被中も号す。後第春目
其穴乃上銘小并伊被後以帝久四
ハ中ハ連連並角ハ細く銘丸ハ少
番丸ハ其先丸ハ中ハ山ハ山取銘也

一

沖方剛

四松

刑法

為負

番能

後角

被後

洞英

並角

一

雲上の水化番ハ中ハもろろ一ハも板

菊もわりハ被洞沖化ナリ

△

龍隱被洞

定五後番能

被後

洞英

正月

則四

栗田口大隅被中も号す。後第春目

其穴乃上銘小并伊被後以帝久四

ハ中ハ連連並角ハ細く銘丸ハ少

番丸ハ其先丸ハ中ハ山ハ山取銘也

三月 景園 カゲクニ

栗田は後久皇子後推守成

五月 國恩 クニオン

栗田は左近將監と号

七月 家吉 イヘヨシ

備前福吉は後久皇子と号

九月 益心 ソクシン

備前國福吉は後推守也
後六毛も中東推守と云

十一月 昭則 ショウノリ

備前国後久皇子あり
後又の君と付て後推守と号

右六人々二月元中義と勅る也

一 後久推院於後久國推院ハ勅書とあり

菊乃大さ又分家十七歳と菊乃大ふ

大小と雖乃下ふとありや

一 後久推院推治三后時ハ継守と号

九条時佐太政大臣二后推院太美中則と号

一 太政大臣公ハ小麻呂とあり推院推治表

同貴家乃上ふあり推院公乃標丸と号

一 九条時佐云ふ小麻呂月とあり推院下時佐

號ハありと云先細く推院ハ剛務と号

一 二后推院公と中推とあり推院ハ何れも心

かあり云ふ同ト

一 大宮中絶云ハ代通ト計ナリ也又曰
一名宇步之下小江無た歩路也此本
指又ハ先云々ハテ指画の如く細小橋迄
何モ下地ト仰リ給ふ後多明院大蔵又
と焼給ふ云々又乃以才乃より下子氏
多く焼て雖ハ小腰又大云々玉と大
小小焼給て抛行より上より多子多孫
原全地崩より横焼と云々焼給て
焼多し云分取と云々分取云々
一新所 下上云一路とに出す後多指
院所云先屬云此九条殿此化と云々
一 徳園一代親治乃牧路云忠頼乳を
し牧路云下小江と云々し疎り云々
ハ云々未記云云云々

△徳園同様云才不同大略書載

一 宗述^{宗一ノ傳} 一 國行^{宗二ノ父子} 一 國行^{宗二ノ父子} 一 國行^{宗二ノ父子}

人 一 國後^{宗二ノ父子} 一 國後^{宗二ノ父子} 一 國後^{宗二ノ父子} 一 國後^{宗二ノ父子}

一 宗二^{宗二ノ父子} 一 國宗^{宗二ノ父子} 一 國宗^{宗二ノ父子} 一 國宗^{宗二ノ父子}

一 國宗^{宗二ノ父子} 一 國宗^{宗二ノ父子} 一 國宗^{宗二ノ父子} 一 國宗^{宗二ノ父子}

。彼前一人。脚。彼。一。為。健。然。中。一。人。也。子。一。人。也。三。人。也。能。能。

一。國。信。。道。旁。一。人。也。列。一。政。宗。
。彼。後。一。人。也。中。一。人。也。金。一。人。

。七。代。一。國。長。。承。一。人。也。承。一。人。也。中。一。人。也。一。方。
。三。人。也。中。一。人。也。門。

。一。人。平。一。人。西。。能。一。人。也。安。藝。一。人。也。一。月。山。
。二。人。也。中。一。人。也。

。一。國。一。恒。清。。考。後。一。人。也。一。國。次。
。中。一。人。也。中。一。人。也。

。一。人。伯。列。一。人。一。國。光。。粟。田。一。人。也。承。一。人。也。子。
。丹。波。一。人。也。大。和。一。人。也。相。

。列。三。人。新。舊。只。一。人。也。一。人。也。三。人。也。能。能。
。能。一。人。也。能。後。一。人。也。能。中。一。人。也。中。一。人。也。能。能。

一。有。國。。一。人。也。河。内。一。人。也。粟。田。一。人。也。一。國。永。
。一。人。也。伯。列。一。人。也。能。一。人。也。一。國。永。一。人。也。

。一。人。伯。列。一。人。也。一。國。永。。一。人。也。大。和。
。一。人。也。能。一。人。也。一。國。永。一。人。也。

。一。人。大。和。一。人。也。一。國。次。。一。人。也。能。中。
。一。人。也。大。和。一。人。也。一。國。次。一。人。也。

。一。人。粟。田。一。人。也。能。林。一。人。也。一。國。次。。一。人。也。能。中。
。一。人。也。能。一。人。也。能。一。人。也。一。國。次。一。人。也。

。一。人。一。國。次。。一。人。也。能。中。一。人。也。能。一。人。也。能。
。一。人。也。能。一。人。也。能。一。人。也。能。一。人。也。

。一。人。能。一。人。也。能。一。人。也。能。一。人。也。能。一。人。也。
。一。人。也。能。一。人。也。能。一。人。也。能。一。人。也。能。一。人。也。

一四安

栗田口二人。彼前二人。後流

一四流

。栗田口二人。彼前二人。父子。子代流

伯列一人

一四流

栗田口二人。肥后二人。三何人

一言光

栗田口二人。因列一人

一四流

栗田口二人

一安則

栗田口二人。彼前一人。大和一人

一安則

大和一人。彼前一人。大和一人

一正宗

相列一人。因列一人。彼前一人。大和一人

達平之武藏二人。大和一人

一貞宗

相列一人。大和一人。因列一人。大和一人

一四流

相列一人

一人。大和一人。父子。肥后一人。彼前一人

一行平

大和一人。彼前一人。大和一人

一和一信圓

大和一人。彼前一人。大和一人。父子。大和一人

一正桓

彼前三人。彼中一人。彼後二人。大和一人

一包平

。何田一人。一安則

二人

一助平

彼前一人。大和一人

一長光

彼前二人。父子。大和一人。平安後一人。大和一人

一系光

彼前一人

。大和一人。一安則

二人

一一文字

彼前一人

。彼前一人。大和一人。父子。大和一人

一守炭

彼前一人。大和一人。父子。大和一人

一頁寄

伯列一人

一助包

伯列一人

一家次

。伯中斤山一人。後河田入然中実見先
紀之と同時に幾列へ下る振寄後前うらに後後
ク子ナリたカ小大切一。うらに他は同後加列
後後小一人ナリと云々

△進物之事

一 進物を納めし秘候御ふ進より松原小物乃
正に於て切之所支佐多々方後為より
先代乃河紀一並せり也同化後を繁及
と云又云進を納自同後及一、くく
分別五、一松原別記太小記と云々

宗近

系三条
号小雅治

在國

系宗子

國宗

後前
二部

吉國

栗田口
國吉子

信房

後前
系後

角小

播平國
安れ子

子成

系酒後子
子成子

子成院

和列
仍後

信心

後前
信房子

國永

系安奈
系永子

定利

系永子

助近

後前
産平筆

助包

後前
後子

吉包

後前
右後

守家

後前
守子

助近

後前

盛助

後前
助登子

包永

系永子
平三子

新造而

承恩信

長列

後居任
小終云

宗云

後亦

助後

後亦
則後子

其近

後亦

介成

後亦友
成子云

未光

後亦

永包

後亦

貞德

後亦

多包

後亦云
云居之

多強

後亦云
後統云

真守

後亦
云云

政宗

後亦三弟
後亦子

助久

後亦為
後助延子

友強

和列子
友傳子

成宗

後亦為
後亦子

行仁

後亦子
後傳子

士邪

豐口者
後亦子

成恒

後亦為
後亦子

助村

後亦云
後傳子

國主

和列
和列子

光忠

後亦為
後亦子

長光

後亦為
後亦子

真長

後亦為
後亦子

真光

後亦為
後亦子

真成

後亦為
後亦子

友成

後亦為
後亦子

真吉

後亦為
後亦子

真吉

後亦為
後亦子

元恒

後亦
後人

久列

後亦國
後亦子

吉真

後亦為
後亦子

順次

後中恒
後亦子

久列

後亦國
後亦子

長成

後亦為
後亦子

一文字

後亦則
後亦子

菊池

後亦國
後亦子

是助

後亦為
後亦子

長光

後亦
後亦子

恒光 ホウカ 安歌 アウカ 益安 エツアン
ホウカ 益安 エツアン 益安 エツアン 益安 エツアン

▲他處名之字

冠落 カウラクトレ 又舊地 セキウチ 痛化 イタハ 切落 キツカキ 切落 キツカキ

斤方 シバ 年他 ネンタ 切落 キツカキ 平化 ヘイカ 切落 キツカキ

小信 コシン 三頭 ミツカシラ 撲子 ムツコ 反 ソリ 富株 フキ 反 ソリ

九恒 クウヘン 二花 ニハナ 信平 シンヘイ 信平 シンヘイ 信平 シンヘイ 信平 シンヘイ

▲地別之名

地 チ 又膚 オウ 地 チ 村 ムラ 上 ウヘ 又 マタ 村 ムラ 膚 オウ 又 マタ 膚 オウ

歸 キ 湯 ユ 氣 キ 劑 ジ 後 ノチ 又 マタ 後 ノチ 又 マタ 後 ノチ 又 マタ 後 ノチ

直 チキ 又 マタ 乱 ラン 又 マタ 乱 ラン 又 マタ 乱 ラン 又 マタ 乱 ラン 又 マタ 乱 ラン

▲公形像

追 ツイ 因 イン 渡 ワタ 翻 フタ 渡 ワタ 換 カヘ 渡 ワタ 換 カヘ 渡 ワタ 換 カヘ

坐 ザ 差 サ 切 キ 差 サ 切 キ 差 サ 切 キ 差 サ 切 キ 差 サ 切 キ

タカヤ、カタ
 山形 山形 牛山形、並形、間形
 一文字、片山。片煙。片斜頭
 車形、頭。角。目貫穴
 小肉

▲刺形と次方

ナキナク、
 去り極、二面極、係極、小、と、日極
 保極、蓮華、井、斜、降、三佑
 指、藤、摩、荷、凡、形、梵、字、
 忌、新、佛、龍、冠、葉、柄、花、折、施、不、動

▲強之次方 必形



大和
 切、重、ま、と、ま、平、の、形、換、ま、結、の、形、重、ま、
 大和
 切、重、ま、と、ま、平、の、形、換、ま、結、の、形、重、ま、
 大和
 切、重、ま、と、ま、平、の、形、換、ま、結、の、形、重、ま、

大和
 切、重、ま、と、ま、平、の、形、換、ま、結、の、形、重、ま、
 大和
 切、重、ま、と、ま、平、の、形、換、ま、結、の、形、重、ま、
 大和
 切、重、ま、と、ま、平、の、形、換、ま、結、の、形、重、ま、

い應永仁元徳正中建武等の年号の帳次

徳永。まらふ所

又六分経よりなり
その徳永の徳永の帳次
の他は二か計よりなり

徳中まらふ

大まらふ

九山から山の間
又まらふ平山
まらふ山

徳永まらふ

九山から

うらまらふ
まらふ

栗田。まらふ

九山から

一栗田。まらふ

まらふ

九山から
又まらふ山

永信國。まらふ

越中。まらふ

平山

銀方たね

大まらしの形

本銀ありてふり
やうなるものあり

銀方たね

平山形なり
かみれりふり

銀方たね

そとへしらたひ
いんさたふり
ささたふり

銀方たね

銀方たね

銀方たね

銀方たね

銀方たね

銀方たね

銀方たね

銀方たね

銀方たね

銀方たね

銀方たね

銀方たね

銀方たね

銀方たね

銀方たね

銀方たね

銀方たね

銀方たね

銀方たね

銀方たね

銀方たね

銀方たね

銀方たね

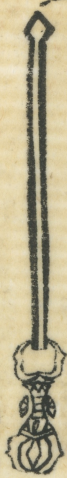
銀方たね

銀方たね

銀方たね

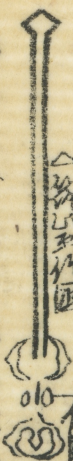
銀方たね

大和物語云三條御所 大和守の御所 三條の御所
 御所のうちをみたりと云ふ事ありて 三條の御所をみたりと云ふ事あり
 三條の御所をみたりと云ふ事ありて 三條の御所をみたりと云ふ事あり
 三條の御所をみたりと云ふ事ありて 三條の御所をみたりと云ふ事あり



△筑前御所

筑前御所 筑前御所



三條御所 三條御所 三條御所 三條御所 三條御所 三條御所 三條御所 三條御所 三條御所 三條御所

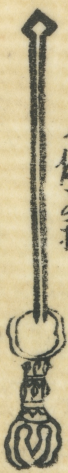


△筑前御所



△筑前御所

五ツ



△三條御所



△筑前御所



△三條御所



△三條御所



上卷

△**倭國** シヨウコク 治合類秘訣 同保

山城 ヤマシロ

。三条小坂。栗田口。平安藏。衛小坂。新類

大和 ヤマト

。天國。富麻。虎越。子孫院。宇多。代勝

羽換 ウカヒ

順倉

一**美濃** ミナモト

。同通定

。本坂源六。國次。本坂忠義。未末坂千牛院。西郡外

備前 ビゼン

。古備前。同多心。同國弘。同是助。同美成。同信房

。長犯道忠。福屋一文字定利。同助行。同庭房。同守道。雲生。大文回登。連家。一代源治

備中 ヒツチ

。青江則高。同安次。二代源治

佐後 ヒシゴ

。二原家。華田助國。二代源治

攝津 セツ

。吉氏一派

一**河内** カハチ

。包平一派

和泉

和泉。安於一派

一紀列

入麻一派

播磨

安於一派

一丹波

長束一派

河

常一派

一近江

宮部一派

三河

二落素

一赤江

圓束。多人

武藏

田部忠武

一伴笑

一人

下野

一人

一奥列

奥列。多人

越前

宗光一派

一越中

義弘一派

加賀

藤崎一派

一石見

盛德一派

出雲

乃永一派

一伯耆

大永。多人

美作

一人

一但馬

一人

因幡

二人

一周防

晴真一派

出雲

左文字一派

一安藝

三人

河

氏吉一派

一備前

業宗一派

一
去佐
〇
入

一
位
二
人

一 竹葉。竹葉。竹葉。

一考ゴ後ゴ定考ゴ一ゴ編

肥後 菊池國村

蘇子一畝

一君使

真幸。真德。不誦國初
以上三路之長忠押解至

一、
和。強。

一校中
○張路並
一代服治

國不知○蘇戶○
一代經濟妙語○三

右扶國經流同錄終

古今圖書集成

山城園

三條小瓶
栗田口

平安城 殘水橋 來

粟田^{又々}堀江大持を刀乃以て殺せしむ
も一振に同くしてやうにして堀江の
こころさうしくありてはまきと又
ち白くして沸かぬ一ひり及ぶ焼
るなり一連及中堀江も成勝二重
又と大眼やくん祭國のいりごとく
ゆゑ一切堀江はあつて梵字す
そのあふさぐがさう極まるく
ゆる先時よりさうさ梅乃葉木
いまあひかり刀ハ光くれあつてと據
たり忠い據角小成ハ角あつて小間
ありけり撰花平一の形威いそと反
以据い志刀あつて平教目貴勢の上
あれさうとせさうの刀ハさうして
目貴氏乃下ふのあつてはこれ

七

△山城國維新

系家松後合親
一統相

△京二系系近 一派系系合親

系近

一三系近二三系二三系近四三系系近
八二日月又欠あり

○一系近乃近少系二系小系近と星す系近
乃三系元禄六年壬辰七月初六日
○法蘭西路三系近系三人係三系人乃三系

言家

三系系近りふし或はかろし路三系
され凡子格なり

○法蘭西路三系近系三人係三系人乃三系

在四

系近子

在四

在四子
伊振

系近

九列系近
係形は傳ふ

系近

在子

系近とく他也 古乃乃改れり切先ほ
まやかり席中振振国ワれ也細る
地とくあく系とくまきひる路とく
ひる一太畝極むく細連及ふ小とく
乃かり小礼ものされ及も主係本と
細及と廣及ふやれりも主係本

忠ふ人かきくとうそふかたれと
 小切たるもあり重遠御株角めて固
 あり鑑乃并板右にあつすがどく又同
 儀候事ありそれの忠乃御信成様小
 平と重遠にとうなり

角

三条宗近



宗近

のひは犬角アリ

サキ地文ニ

角



三木ノカケ宗近

太刀身より
 下細くす
 太刀身より
 下細くす
 太刀身より
 下細くす

一寸五分を
 二天四寸あり



上乳の附
 上乳の附
 上乳の附
 上乳の附

宗近

角

株角より小角あり伊同方柄圓より

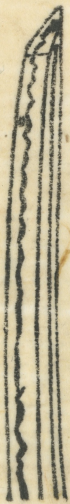
宗近

宗近

小戸屋実宗近

一吉家 三系小根者子み成い宗近か
かう名たより子み極まりとをた刀
乃安宗を以用ゾ根花国受細やる
地をまゝ小乱及ととのづれ又と色
細速及不足と入ぐと極く佛多一席
中たりの安福常い宗近かう一旗
と之をば他よりとか来やうや流
忠乃安の宗近ふくく似より旗の
安福元持てもむわ九一

吉家作
ひの角肉アリ
サキ安と云



在四 下之上他 宗をより子み成い
安やるく極まり 根花国を極やるも
席より一旗 地をまゝあうりあうり
あうりあうりあうりあうりあうり
小乱及小佛とくくくくくくく

あぐらにわりの船なり出舟やう
いりてたうに家柄と見ていり
一乗係ゆき年安城の怪人永延の頃
元禄六年に凡七百六奉と云

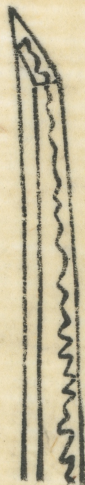
日

宗近才吾

在國

肉アリ

角ニメ肉アリ



墨永 下之上他 船乃以在國が事
三乗小位すき刀乃以父小位ゆり
船地又乃もんがこと父在國
但し是の父もろろ相なりき刀と
刀と極どかくたり
○依國同船小同墨永系二人並列ニス
永列の一人を代乃もんとき

國ニ永

ト々上他 國以平安城乃怪人

在國りニ男墨永が計くき刀乃と云
後小位定利小知り但し地とい替
より船松岡ゆてやうあつめあつ地を
なり強しものききと云ふなり

久國

○安才

○長多門下の人
乃法栗田口の人

國安

○長多門院
久安才

國信

○安才
○長多門院

○長多門院
○安才

○長多門院
○安才

○長多門院
○安才

有國

○安才

國強

○安才

○長多門院
○安才

○長多門院
○安才

國弘

○安才

○長多門院
○安才

○安才
○長多門院

則國

○安才

國吉

○安才

○長多門院
○安才

國光

○安才

國延

○安才

吉心

○安才

清長

○安才

吉國

○安才

國秀

○安才

素長

○安才

信長

○安才

廣

○安才

○長多門院
○安才

玉瀝子云云
張云云

有國 玉瀝子云云

粟田口付へ

國光 玉瀝子云云

右同

國久 玉瀝子云云

有永 同久云云

有元 同久云云

久吉 久國云云

吉光 久吉云云

〇長久寺の境内に建物の以栗田口付へ

近光 久吉云云

素長

素長

國定 國定子

心次 同素長

心國 同素長

國真 同素長

素國 久國子

久元 久國子

〇唯陸天里の境内に此の以栗田口付へ

吉正 久吉云云

心光 あやうき子
早中 よきあり

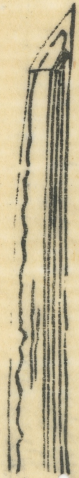
○後三条院を元永
四日吉光の才子建隆
より北八年は小南

國純 スミ 義賢の才子丹列 位す林甲野
冠茂多他

頼家

國友 クニトモ 上り他也 元暦乃以叔林太刀乃路
やばく切先候やうにかさの厚席添
く假松岡いふと二箇やうの地をわど
えりまきくさふり太刀乃路の友也
いりと縁寄きく病もかきせり又と
白くたふふふふふと云くさふり
佛多 林ふゆむつ成焼む太刀乃
抱た乃おさうりんと又うらとわのけそ
二まのぬわり力いふふ小焼むがじう
のうくつりんぐく病常かきいふ
と師 忠持横江流のゆふ林國友と
お又二字あり打國乃字二松ふわり
國友又ハ国いふとさふとあり

國友 クニトモ
内子



栗留

國文

敷角三雨

哲用ニ平同 号考林

則國 中之上也 屠仁乃法最なる先を力

ひあはれく及ふ 熊松目大尼がう
され程こゝやうなり 鹿や一切先と
野やまやん地を走くまゝあはれり
細座ぬと焼のぐれ又と焼大眼座ぬ
ふりせあゝとく焼く沸きぬ又と
あとのふりぬぬよ小細なるも目の
眼ありいふにさうなる眼に刺花まぬ
とて切ぬ眼先を走ぬやうにやう力い
づとと焼つひくさうなりとやとたう
く中座ぬの力よさうへく乱ぬぬ
とぬぬと地とさうとぬぬ国京小国
源のる國 国これなり

則國

則國



栗
則國

困來。

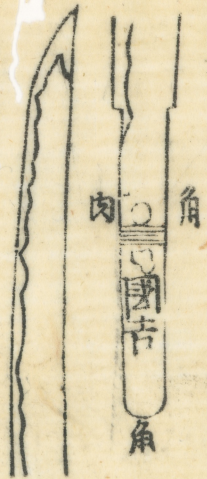
魚

○法國國友栗田口三人、若林前
後肥後一人、宇敷三人
○日語曰、利兵衛栗田口三人、伯列二人
此下は彼の三人と云ふ

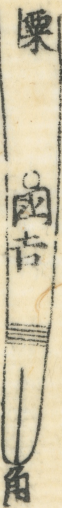
一國吉よく他由たより 天福の成るを射

を刀乃、海がさへ、腐れもく、廣く
腐ふ。根松周いたるに、こまやうな
つらゝきと云ふやういふことあり人
より死むもの多し。地色いれは青
細連ぬと焼但一出来物の中
車ぬかりは他にもあるぬのあり
國友の三々ぬまりも於常春り
此乃底をみえさせたるといふ所と
天目乃至めだのとて、焼かど一也
おとしの骨ひ無利なり又雲いれを白
し、赤も多くあり刀乃細連ぬす

うつりともなりとなくなりと
 焼梅とぬくく焼くも長月共々の下
 小打系乃國吉といふ流小かりる



楨月



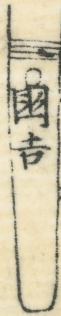
楨月

赤物赤栗田口は今多降のうらぐ

栗田口を赤坂赤國吉といふ

赤く長き延海三月土より

同角



ヒサクニ
 久國 上とく化 元栗田口は今多降のうらぐ

やましくも 焼く 廣く 高嶺 船

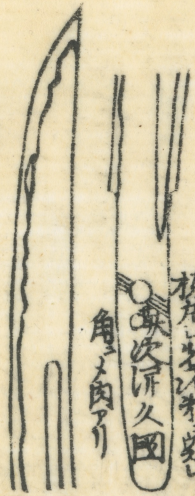
松月といふに細やかなり地をわきわき

なり中並ぬと焼大札ぬと焼心物

井のわたり是とぬのうらへ流く焼く

ちひは傳に加減をきくひん切さうとあり
 されふり切されき後と赤磐とて注
 を切ふふり 是口傳たりぬき白
 ぬふり居水乃ぐとさうり沸き
 力ぬ車ぬと焼くを煮又四光ふ似り
 但 新煮ぬりあるふり 粉りも
 まうにき地耐とさぬりぐとさうり
 つく粉常なりと自給焼つめさうと
 まふとみふとさう久國はぬり

標記とをひきき



角と肉アリ

英次所久國

日

久國

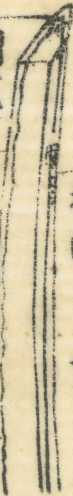
小肉

角と小肉アリ

其へウス

角と小肉アリ

林三湯バシリマ境



帽丸

すきり上六蓋又

刀と小肉

亦帽丸の中核刻しと核

足と小肉

栗

建比久田

肉わろ

持用ニ砂虫遠又ま虫遠所々々
うさもわり

天福より千と年ほん

持用ニ小角アリノエリスガセ
栗
久田
初

持用肉わろ砂虫遠

久田

持用ニ

○張四日流田 國と名栗田口ニ人お後系ニ人
第ニ人後係ニ人係係ニ人係係ニ人係係ニ人
○日流日久國栗田口ニ人係係ニ人下も

一國姿

中上死ん 元居以散るる方好

不ろく去く信多一切先所よりやあり
度も紅あり張松同移れろる地あり
あくまー細虫ぬと腹ぬるまめ小虫
くたてと白ー刀乃地をぬるを
刀小虫切ー刀ハ三株立すく三角へ沸ぬ
一筋とす小井國安ふお同費の上
小井 國安ふの上流より移換流る

まゝありゆ採下を採國にあり

○銘形押取不見

○徳國同銘四有ふ系三人何内三人露田
に二人俗列三人俗系二人

クニミツ

一 四光 中々と化

弘安乃以んる力乃

栗田島にいふは目一銀板目形小と細

やあり移れりいふは地を底くろく

上より細連又と焼くゆふにのりし

あり銘と景小弁はお列へ下らる

いふく是よりより太力の積さる

一 吉光 上々化

後

建治法を力

乃あかきと地と多くせむく地を切え

をた力乃おふつとく極常い化い

板目乃板ありとく大板乃より地

中かまハ板目すかり板乃方ハ板見

よとろ出来物ハ板目乃りくは板

目乃板乃内小より板乃とくあり

又梨膚の板あり地をいまくて

て底小は氣をる細連又武ハ細のれ

と焼た力ハ地を付るく拂あり

一 ぬか二まあり又々をゆく雲のふ

○

角 吉光

吉光

聖のちうふも
 くにうも
 家のごと

「さういふ」
「さういふ」
「さういふ」

のさういふのさういふ
へんりやうは

吉光

さくらのみや
りんご
さくら
さくらのみや
あまのこ
さくらのみや
さくらのみや
さくらのみや

二まゝとてふふ
 といふや
 ふれなる
 とくま

○張國同格回書先栗田口一人恩恤三人
山城三人一人いふ

國經とて他は西洛乃江出師門院の所
今を乃乃所あり細目小長く切先
はくもやうなり輪ねひあく腐無く
帳紐同少く塊ふさうる塊を馬し
たふさふさふさふさふさふさふさ
針切と乱又小焼あり又ふらげふさ

やくひりおり線又いふにさす
 せり上へいふにさすの又とがく焼
 せりて細いふ乃とせりより膝必
 せり地へいふに焼くく焼入て上
 あらふ焼中もやうくくくく
 上れうくくくくく小蛇乃と一
 方乃焼くくく一方の焼せり
 ぐくく婦ま乃のぐくくくく
 あり廣又乃ふい三寸程くくく
 焼入てりぬくくくくく沸
 刀あは直又と焼線又とくくく
 とくく沸とくくくに焼より大
 刀又とくくく患公平小肉を
 せりては小國とくくく刀
 小肉内國とくく國總いふ
 一於系とくくくくく

國總

國總 國總



栗田口家則

使角ノ正止妻小内方ク方の子は字素
似たりと白体ありうへ似たり

三國

栗田口國孫が方子も承ふ不見

栗田口國孫才

見四

使角ノ正平二日

四資

栗田口 系承不更

四

資

角ノ正の正平二日

系長

國列小浪治三代河治の四系

田口系長の子をいふ故小くいふなり

名律

小内拉が後ト人肉なり時
代意妻の氏二位同

○因乃長景長

表辰のくろき 是はめいを

浪哲自とハ之方ニまめ極目と比を南

里く上ハ方亦一多武をめいといふなり

一別孫師をくはくはくくはくはく

△平安藏物之系秘訣

△東指江大御入刀の柄はよくくまの
 おまじき一徳ありて席中切を中へ
 包し松岡地をあらくともめさて地金
 ふわふた味を収めありふやふた
 湯へ入し収め候おぼのどくも
 入とふたを糸の糸沸るまでくは内
 煎取つてふりとうくは松小湯が
 しくは湯を倒たり梵字いあめ
 ぬりろばく剣の先をす極めに
 とはやくやふくかふたさへ
 こまき忠た刀の糸表同安方の上
 刀の糸と同安穴下に糸と折刀
 い横下横刀かき但し定利あり
 表折あり忠たいた平山形株火
 角より刀の糸いさうつたふは

長光

東主太師とも長光縁同安穴の上
 并て半へりお出は横下或り
 在るは○後小松院夜光也

光長

三品と号す
 伊模たり

三品と号す

西国安穴の

刀太刀の柄を
〇後在室上は水真次

上三行信重連人
標々丸の車

女子

是長息女

長吉

是長息女
長吉は長吉の
長吉は長吉の

長吉

〇後在室上は水真次
長吉は長吉の

長吉

長吉は長吉の
長吉は長吉の

吉則

時代長吉の
吉則は吉則の

女子

吉則

三條河内時代
吉則は吉則の

吉廣

〇後在室上は水真次
吉廣は吉廣の

吉廣

吉次

時代長吉の
吉次は吉次の

吉次

重次

時代長吉の
重次は重次の

長吉

本三太郎太刀の
長吉は長吉の

長吉

長吉は長吉の
長吉は長吉の

長吉

長吉は長吉の
長吉は長吉の

長吉

長吉は長吉の
長吉は長吉の

新公家

光

佐用ニハ肉ノリヲ申込

角

一光長

煙ノミ

平安城を力乃安

信廣くまゝ地をいかにぬきこき
並又のぶれもきやう一赤くうりこ
トウ一刺梵をいこきふくあや
一落ちりこ三氣揃ぬ一それも
肌物でいむいぬれをと燃吉
刺吉を房吉次をむり

並角ニハ御枝をい喜まふ

平安城住光長

角

虎笹入を和次屋慈をう

毛もり

屋ヨリトセ肉の金

ひひり

平安城住光長

ひひり

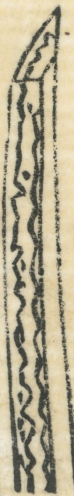
肉のり

ももり

毛もり

一長吉

又赤城のふくをい喜まふ
長光を房吉をう



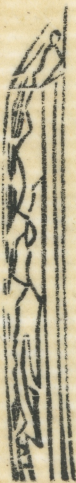
正系

連磨石刀乃爲嘉祥之好也

地を白めぬるを白くぬぐふかの
 べしと焼く帝ありやうと丸一のあ
 めくうりやうと忠祿丸く連達
 又横戸小ととも張ハ二の正乃字
 あり△は連達正乃京張流の
 以系系系系系系系系系系系
 系系系系系系系系系系系

○恒念朝廷之令、山城國修人、意安の法
より、元禄六年と二三回、元禄一

達磨



正光

西光 了物跡名かり事い所入る道
号す系後小依に是密入るを光か
子よりなり

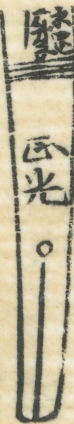
特角ニノ肉ナクノ分ニ通

氣

卷之六

水定

西光



山光

永建丁才子

△山城國ヤシロシニアヤノミヤ後小路物永島秘候

永島カミサ昌河も昌他大寺カミサ伊模常表同表大
子カミサ乃三派と打振なまに能振之

定利 永島カミサ乃三派と打振なまに能振之

女子

定家 定利の子

定之儀 昌河が孫

女子

昌河表同表大
乃三派と打振
後乃三派と打振
伊模常表同表大

忠家 定家の子

定之 永島乃三

末行 昌河の子

定利 昌河の子

昌河乃三派と打振
乃三派と打振
伊模常表同表大
乃三派と打振
伊模常表同表大
乃三派と打振
伊模常表同表大

内ふぬさたの定さる氏隨（辨）
又國仍ふらゝ似たり株ふ端もいと
國仍ふら株一地ふ株をたゞこのまど
てのみじゝゝ地府ふ此守ゑにふ
仍ぐ又と云一説あり是也
代わりをうゝ是利ふ忠乃ほあひ
忠乃ほあひと云ゝれりも株を
ゆゝひと株肉盡きさるり株はまふ
大あふ瓜賞瓶とふ

かういゝとら或おは
あうちよとく
あうれは

わさゝのち中に
まぐ様て
あうれは



是の如
してわれ
も二大
まふ
たさる
くは
や

一ニまふと様とだにふ

定利

永定利

折角ノ内あり折角也後小後ノ内
角小あり

永定利

折角ノ内あり折角也後小後ノ内
角小あり

定利

○月後言定利永定利あり大和二人

定後

定後

昌阿

永昌

永昌小あり

散位永昌を折角入る大昌折角
と少又昌を少又三位と少も逆

折角あり

昌折

折角折角百果折角折角

△山城回来一折永昌秘後

西言

先組是より始ル○四象院此より厚仁の
比平城院へ来りより又元祿二宮世

女子

女子

来國長

西米ウ原

○花を流す今ふふ
以揚陣中傳信
中洛来と号ふ元
祿六年と三百半
一年切り

来國長

来國安

西米ウ原

来國安

来國安

来國安

来國安

来國安

西米ウ原

来國安

西米ウ原

来國安

西米ウ原

来國安

来國安

○花を流す今ふふ
以揚陣中傳信
中洛来と号ふ元
祿六年と三百半
一年切り

来國安

西米ウ原

来國安

西米ウ原

来國安

西米ウ原

来國安

来國安

来國安

西米ウ原

来國安

西米ウ原

来國安

来國安

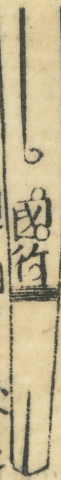
西米ウ原


来國安

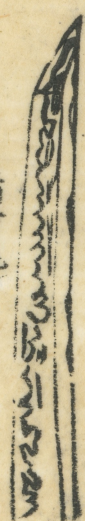
西米ウ原

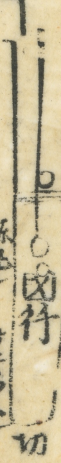
来國安

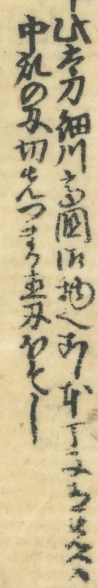
西米ウ原


 函ノ内を 拆ハラス

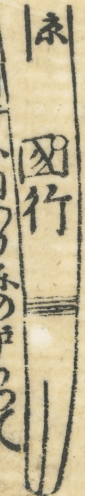

 函行



 函少を


 函行


 此を力細川と云ふ所なり


 函行


 函行


 函行

國行

國後

中化

伏見院

國後 中北 心懸乃ハ其強ヲ部々力ノ
弱又小能似たり鷹の机及小廠もれどく
なり丁子及地り 又二層並み小や三
と入くやく但とき々丁子と焼くやあり
よ丁子大やくと並みのべれ机及こ沸お
り丁子及ふき方機一あまなふに細
さし沸もあり 但取あらふやうに煎膏
をく地を高くするものにはたきききそ
びく焼くや地食之忠林肉横切後同煮
突乃下小二字打 又東國後のた他枝
は本乃字ど加く打とま又別人食ふ
低いを刀乃筋筋底く底もやし沸く他
なり並み乃ちらふ水のけりふに系が
これ二重及まふあり大瓶抱りのありこ
直及おれば細かと思すなり底く焼か
なりまゝとも長く焼くなり刀へちり通
てあんまりのりなりとんりて飯長
肌抱のり荒まへる所にて削いなり
換ふようになく中絶次なる忠回お後

同書穴乃と銘ふ二字より大抵水脈の
 上流より下流に接する一六度流と云
 う所の又云二字國後乃刀狩と流と云
 光ふ所よりよりいさなり國後國の國
 三代ありと下れと云決然とよりと云
 中子と丹波乃と云小領す実名なり
 國後と云と云又云重取乃國後の二代目
 小領と云と云と云と云と云と云と云
 中下と云と云と云と云と云と云と云

國後

此乃サ
 持丸

中子乃
 の事なり
 まる流

のざれのむ

又の上にあえのうと云なり

事相に刀ぬぐサひく

にえなる

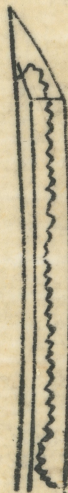
國後ニ字流のまじり

國後

を

極内下り

サキサキ



十 未國俊

未國俊 未國俊



諸君如遠中堂國俊と未字不盡

未。來源國俊 註簿 角

文保元年正月日攝者矢目わり金星

未

未國俊 永仁四年十二月卒

極角シハ内わり伊豆遠

極角シハ内わり伊豆遠

未國俊

未國俊

一 國光 中他 元應の比未長束を乃

安國俊ふ似より細一庵中切る中

[illegible]

唐の蘇角やて田

來國光 來國光

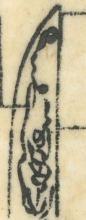


西

山

姓武三羊子

船を以て入操や、此方より



紙をくちくちとちぎるゝ名あり
くちくちとちぎるゝ名あり

其に於ての上は佛とて一を以て又少を
て多に佛とて一を以て又少を

來函光。

來國光。

二 四

中他 通倉来と号とる刀所

いど廣く切先のびより席張く大崎やと
と極あり面ゆり圓形ありより腹極
目は他ふ線かふ乳ぬど焼て先へ底面
更と焼入よりぬる三底まめに白く佛の
ふ二極あり廣ぬるふのくくく佛ぬ
く乳ぬるふの佛の極やうぬとあるふ
ふぬて大よりと能くふふと内と極て
佛の極やうぬのくくく廣ぬるふの
弁とは大よりとるる極ふ佛とありふ
ぬのふふのく佛ありくぬくもとる
乃分列なり極ありふよりより二極
ふ極も多し地ふいふくくく地有
わりまのふの極秘書ふの他とと
廣く底下かりふ他る三極の極うとと
ふふのく乳ぬど焼く佛ぬふ一更ぬの
力の地ふの極やうの極も佛もふのく
やうのく一より圓後ふのふのあり
極ととれとてかく極のふのふの
別梵字ととれた他他ふのふのふの
ふのふの

齒し角

来國次。

辨角

筆流小乳必と焼くは津國房の二所をすれあり
齒秀子と又述く云はれり

辨角ニメ河横下直遠河若クは

来。来國次

来。来國次

角

此供も必もと死
入るはこす
西へとるなり

来國次。

千二

國長

下他

西和乃中橋来と号す

國後り中子と名刀乃所為城少ひうく

もどとせうせうく他くは振極同席中地

るまてとあしめかりむかまあけり

大略重及とやく小乳及ともやのれ乳

乃とややくと重及乃ち乃の國乃の不

必来あるに似たり地じりぬー及と

まて上ふたよりとて能く忠横河

棟内木回長と打

國長



京都大倉庫裏

角

梅角ニメ小肉ニ沙口

光包 ミツカバ 下上化

延き乃ハ戸津木系時

刀の寄さうのくやうに修かき大蔵店い
 修と三棟もるに根柢因いれを細やうや
 地と三庭ハ果めふんしてととまねやう
 ふよふあふなととと垂ぬとやとあふれ
 又のれくもととやう乃海國後あふり
 但ふりふと門けととひろたうりのと
 かり木の枝とれとたさつととくいや
 とととじと又云小丸ぬのぐれぬと腰刀ハ
 彼あふたのふり乃ととと小焼さくもと
 國後が身子ふたうととと木根の長光が身
 子とあり彼あふたふ焼たかき竹たう
 ぶ一國後ふた竹たかき係の年号と

なりた刀とば他ふいづ刀乎中堂来
ハカむりとも忠務角事とやとり
先片山乎一落ハ二まふかいと落
ありた来う一れたふいづく一未
おんくとり

中堂来

光包 光包

角メ小肉ありす角メ

光包 角

包メ号戸水 中堂来

子メ戒 中他 延まの品を刀乃安中

やう一福たり一福を華ぬふ小足小焼
今より根根目ありて一版やうありとも
店中地ふ陽うりりふんをこれば他は
形りて所習ありぬい膳中を小籠小焼
て被前表光かきこれと一上への世
ぬと焼泥ふいありぬと表をぬふとあり
さうりふあり極どかたさうを刀多し

併きくこほく國後くみちをす
 大云はを越小入たりう久佐の
 越小入を越小入を打つたなりぬ
 父よりなるや 越乃ぬぬぬぬ
 越乃ぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
 越乃ぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
 乃やう父いぬぬぬぬぬぬぬ
 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
 ぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬぬ
 忠乃形徳國後小智乃

角戸内

未
 はを越 〇 了 戒

未
 了 戒

角戸内 作元徳二年十月五日

〇 了 戒
 此の所は 徳美國元 〇 了 戒
 徳美國元 〇 了 戒

〇 了 戒
 此の所は 徳美國元 〇 了 戒

〇 了 戒
 此の所は 徳美國元 〇 了 戒

〇 了 戒

角子肉

○了哉直能作

角

酒肉

乃以平安城みほ 系馬二匹とる

衆彰作肉了久傳

通

久信。

抄作入 株角弓 弘日

角

標角
護
下

氣久信

倭國分^レ下^ニ爲 倭水乃以之乃の前様く

又事一熊松同なり板目乃のみより同の
いふもさるる隙隙一地をゆく體のさる
さるのゆくさあり大机改とも焼のされ
机とて焼滞あり一重なり地を改めさる
地をさるるゆくさなり一机改の滞
は是のひの細たふあり一滞机のひつさ
ふへとて面教さるる滞りてさる
さるのゆくさあり一滞とてさるる滞り
さるさるなり是は化す切けさる

と九く孫小湯をと候事も又同然に
 代あり太見候祖父より又親父様や
 もより孫以下より中候必しも大親父の
 御たり孫の侯又と様々れを地より
 一先二代より傳乃とより又祖
 父より又より二代目ハ四代目ハ
 國公の心より又孫も一様伊先
 山形より又又貞家仙より又又
 一様系必ふより又又

信田

信田

よりサナリ ひとの世のふり

さきのあ

より

より

より

さきのあ

より

より

地前より

より

より

より

一 國吉

私考

系_{ヨリ}系_ニ系_ト号_ナ寸_ハ元_ハ延_ハ國

永

國吉

。

吉安ニテ
百三十

棟角_ニ小肉_ヲ立_テ國行_ニ優_リ
戸並遠

棟角_ニ小肉_ヲ立_テ安城佳_ニ對_シ國克_シ行

。國吉

角

私考_上一六六三日 私考日曆仁壽四年

棟角_ニ小肉_ヲ立_テ切

。國吉

一 系國真

系國後_ハ股_ノ留_リの骨

系國次_ハうい_ハと_ハなり_ハ系_ハなり_ハ。後醍醐

棟角_ニ立_テ戸並遠

天皇_ニ元應_ノ比

。系國真

一 國來

系

國來。

棟角_ニ立_テ遠_ニ系國_ハ分_ハ来_ハ高_ニ号

一 来困嗽 来思不見

来 来困嗽。

拆角にて沙日

一 同来 来思不見但困来

来 拆角にて肉あつて沙下

。同来 角

一 来行 来思不見

来行 。

来 来行二月二日

一 来永 来思不見

来

来永。

一 来泰 来安 来泰来女より来思不見

来 来泰。大来来女

一 木因久 ライクニ 久信が弟と云ふ系図ハ

了戒が子久信が親と云ふ系図ハ不念と
お考へ之ハ正和の以久信の系図

振角ニハ肉ナリ久信并
永
○来因父

一 時信 トキノブ 系図ニ不見

三 時信被之 振角あり

一 長吉 ナカギ 平安城地々系図ハ長吉
吉永乃親子といふも長吉吉永の
親子あらず歟。別ニこれと云ふ天お
考へ下

京都住人菅京長吉
振角マハ校下曆三年十二月日

一 吉長 ヨシナガ 振角ニハ浦模下云々がり

吉長作 角ニハ肉

元徳ノ系中ノ多ク

まゐさへ減く切らじとせんとす
しちとりまの國乃家市中ふ王と帝
る紙正系お傳り時と知一國作と
同おされど刀とや一造國ふくとひり、
仙とわくと平目あやくし國重よりハ
海軍く國重なりあり飛目兄ふとく
是り沸ろん知くまり悲別長長船ハ
大和河内振津系於強倉方亦破る
ふしめく中何ふへあれ指とえかり
○舊例よ大和の国ふ入とてたをたふ
ゆくういなるすもくも若れ國作大



心の保丸レ

長谷部田重

角子肉わし 江戸小治政

角

長谷部國重

角

長谷部國重

長谷部函重

探九折並遠

△大和物は大狹路の国貴女乃と下草
而帶裏小打伊等ハ定ラハズも根に
より同他おも或ハ苞伊達云々伊達
是切並並あもる中心を據程僅ち
小能いふよりく不問も葉面口等打拵
小一拵るより何一拵一拵多物ハ國の
字一拵なり伊も皆拵下拵伊何
是と小切等々半段より大切等々切
是もより口傳ふと保留の節あり中
切先もより下。舊例より大國と
田古れえ紐として書乃物ふより
法祇なりは書ハ系家とて例と
どう故系を紙よりめりて葉面は半
葉紙と拵り大書とていふ一ハ大系
紐法乃系ふたうとれと終

一 ^{アニクニ}天國 ことと舊 女武 大聖の山々大書
乃法大系云々女佐人 ^{元禄六年と} 乃
乃法根板固いふと油やふれ地云々
まふちとふれとふのふとまふたふれあ
ひ拵一とふれ乃とてなり根ぬも偶
つれぬれ地云々女師云々一切を法
まやふれ焼つたり小机乃足焼入

為常をわのぞれ計しをを席より一
刀をくろひのうへよりをのぞく
雪のうへへ。目か無暗をえ祖一代無暗

天座 旅より上り孫 文武 大聖 晴々 日

石乃乃の精ひくく及々一席深

自秘されたるいふく及々一席深

同のれと移れをを及々一席深

一やろく膳ありたるはと計と

ちりくくと為常ふすく及々一席

又乃逆足とく膳切をの膳かり

とやろく膳く横され因に膳の

ひろくやもろりなり地をり

とわり及々一いれと常のく地を

あどく思ふいれと常のく地を

ゆり思ふいれと常のく地を

いり無み中り思ふとく地を

左体中揃ふとく別し無暗入位上

手乃揃あさくさく及々一より

されまされと無みかす天西回内代の

内中く思ふり中ん揃角あまの

めんとくく及々一思ふとく平

乃やまのりつくみまらふつらめまも
とくし心先片山乃ふも夫のの
くも又ハまやうまに乃角と丸の
うやうあるも何り

角ノ小内わりの新蓮

○天座

二 女老 まつとみ 文武八味をうけ代を
刀乃勢うれり乃矯度くま。一 蝦松同
いれもはばやうのくま。一 小礼及と矯
矯り派がろく焼お。揚打乃経より
廣及あり又やろ重及も焼之焼及と
やろま。一 蝦古にありろんん天
回天座のハろろ。邦と色り

廣新をましく号す

一 安州 まつとみ

一 象虎虎をう永延以

石乃海くま。一 安のく揚乃廣くま。一 小
まろ車に矯揚り。一 蝦松同のハとこ
まやん地をまろくま。一 蝦やんまろし
まろまろあつてまろやろ白く
すんりえく。一 まろ物れよハの揚
乃まろまろく。一 まろまろくま。一 乃く

正にどりたる又之より尋常く

行國

後よりト

一系改直字親弘

のほを刀のあやしくしれり後
く探るるく無極目地を白め終つた
探るるくより細束又し小机又もま
つれ机又も機沸く又又思し丸
探他りきほのりおあひりき
さうお打あり

△麻搦の天御真のうりしき刀

極おど切らるるき半段おなり物の
止もありしおへ大略を級お割と
けりしおへえきりく横を級とふ
ひりりれん中心乃れ極へ探おく思
こ思し探へるしありぬが横
野あり探おりへ思しわいのえん探
はされしお小打他他しお思しちふ
るし思し探他りぬし探おり思
く極おぬる割し割極切極思

△大和國當麻系系極後

國行

片割り毛但又乃習く亦も同おし

後行

友鑑

赤利

友

發行

有光

女子

有法順

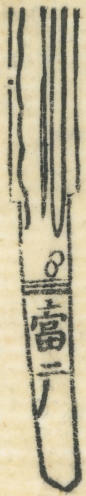
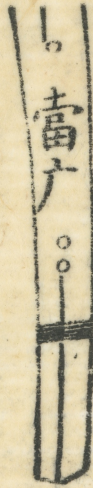
次有

佐

當
麻

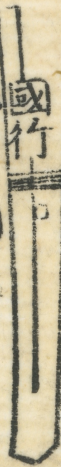
廣くすべし一切先流す事なく無碍同
地を是くまゝに細く腐立及乃ん
縁より成つたを細く腐却して一尺計
乃至之縁ぞれやうし又争く事あり
てまゝあふゆゑ一葉をかかゝて沸爰
一力の是れ又成腐流ひるを力と云ふ

かしよりるをふらひぬりきるをふらひぬ
 牧畜を鑑とす。猪と心先刺也
 猪の自然を鑑す。もろは同他也。猪
 あり上中下ふもろは秘書ふもろは
 夕経く懐とす。つれなりえ乃又とす。く
 懐はひらく



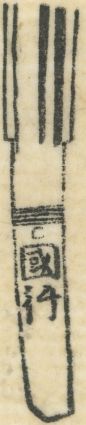
一行 中と化 無修行 文法 文法
 水牧代を鑑の系景ふりてあり

犯是處也



松角 二内 あり





工刀のてくすわぶあまの度さ界えー
是大和のむきそく

あふりやうあふりやう焼つゝめだち
むねよりあふりやう



大和
あふりやうあふりやう
「あふりやうあふりやう」
三よ六沸きこち

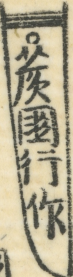
あふりやうあふりやう

あふりやうあふりやう
別中よりあふりやう
地よりあふりやう

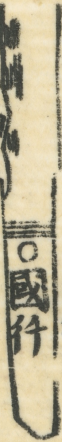
あふりやうあふりやう
地よりあふりやう



あふりやうあふりやう



國行



友晴

出戸國行子系果

友清

角ノ沙虫邊重ノ四行ノ子

泉冰

光緒庚子
廣行

高平國行子系出未足

泉。水。

角ノ尹車漢書廣國行子角

發行

下と
成徳が子系ある

贊

發行

單て西

大和包^二作^一包^二家^一

のくまふ

後行

下上他

國行がゆへ系

大和國俊行

角ノテ立遠方のより立望す戒心あり

有後 アリトモ 友清の孫の系品あり

角ノ小肉あり并日

有後

長有後

一 女光 サイクウ 苗戸 系品ニホカニ一代

角ノ肉あり并日

女光

苗戸

後等々々
連治

次有 ツアリ 有後陣うみく系品あり

次有

角ノ小肉あり并日

△大和尻無系品秘候

則弘 ヒロ 後等々々因費穴乃下ニ打ニ各銘の付ハ

あつしる

弘村 ヒロムラ 横河等々々延等

興村の父々々

つ聲の子孫救ふ

肥列菊地

則長

女子 則貞

則長

則長



友勝 トモカチ 高戸國行が子系家ニ有

友清 トモキヨ 角ノが通高戸國行が子

泉氷 トモヒメ 高戸國行が子系家ニ有

泉氷 トモヒメ 角ノが通高戸國行が子

友行 トモユキ 友勝が子系家ニ有

鬚

友行 トモユキ 角ノが通高戸國行が子

優行 トモユキ 國行が子系家ニ有

大和色を似たり色家
より佛にちうしん
佛さうしん家の
のくくぬき

大和國優行 トモユキ 角ノが通高戸國行が子

有後 アリトシ 友清の孫の系図あり

角ノ小肉わく并日

○有後

長有後ト云

一 女光 サイクハツトノ上 苗戸 系図ニ未カレ一代

角ノ肉わく并日

○女光

苗戸後ト云

後字ニ未カレ一代
連治ト云

二 次有 ツアリ 有後陣の子と系図あり

次有

角ノ小肉わく并日

△大和尻急系図秘伝

則弘 ノリヒロ 後常長因費穴乃下ニ打ニ宮路の時ハ
上ニ打ニ近丸ニ破別以テ伊直直近ニ角
ありし云

弘村 ヒロムラ 横河原の延永
興村の父と云

つ聲と子孫救ふ
肥列菊地ト云

則長

女子 則貞

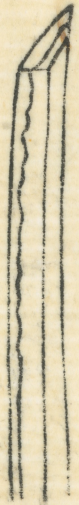
則長

則長

一 則長 介ナカ 下之上他 タヤ 後醍醐天皇之御時

尻無き刀乃海をくぐりて一舟にのり
くひき一切先づまやうの唐金並に
好くやく但し小札もぬき一舟乃心小
に傳あり小札ぬきも是ありがたふ
一舟と傳ふも又やく一舟と傳ふも
一尻無き代目路あり祖父親王
孫の赤きり花二代の大和則長と打て
國乃字おす孫の大和則長と打て
秘するに忠先刻に乃やくふく富のま
へにふしむるに傳はぬりしに傳はぬ
へのりふしむるに傳はぬりしに傳はぬ

大和則長作



格角 同格作 二代目

大和則長作



角ノ小内わく戸同

大和則長作

原註

△大和衣櫛之系品秘法

包永

中二他の伏見院御宇大和衣櫛作人の意あり
平三ノカハ蓋余伊等夜同其穴の
上三鑄打銀指ハ格我同其穴の上三
折銀指垣新並九心之記刀最指と
あひてありと云うと

包永

中
平三

包漢

下上
湯原寺

包利

山
奥派員和比

包次

文殊やう元祖
平三ノ記

包行

包貞

包真

包持

應永比
後垣新

女子

包定

包債

一包永 中他 後醍醐天皇之宣旨のより

衣櫛之切込也一櫛がふまの櫛腰

く席立膝平身んよりより切先腰出
やうなり腰裏りて松岡いふと云う

棟角ニハ肉あり 包永太刀ハカギ
 又包永。 角 刀ハハカギ
 安永年月日

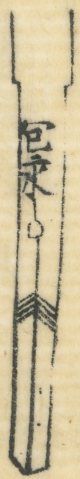


包永。

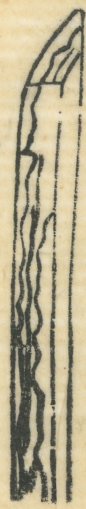
太刀ハカギのふりやわらふ
 平のふりやわらふ



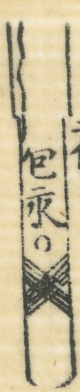
包永



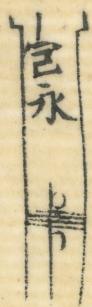
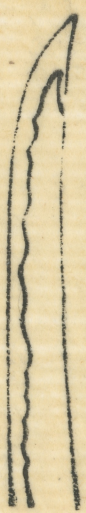
包永。



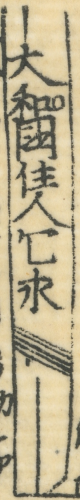
包永。



包永。



包永



大和國住人包永

棟角ノ面と丸角ノ角 号助ニ助

角ノ面

包束の包
包束の包
包束の包

包束の包
包束の包
包束の包

一包利
包束の包
包束の包

貞治三〇包利
包束の包
包束の包

一包行
包束の包
包束の包

包行
包束の包
包束の包

一包次
包束の包
包束の包

包次
包束の包
包束の包

包吉
包束の包
包束の包

角三小肉わいり

一包貞 カキウ

包頭づみし系家より

包貞。

一包貞 カキウ

包利が子し系家あり

と巻の作年録四部 又巻
四部より録し

包貞。

大永二十二年二月日

一包氏 カキウ

下之上

大和玉鉾の役へ出陣へ下

て志津に包乃きみを改めし包氏とす
是志津二部となく多舞部

○花を説くは是等の法大和國征へ志津
と号すおれ是氏不同。是ふ如く同
他と云他ぬふりしやなく辨録
と燐うらぬし地をきりて船を
らむひのりりり切るる色え忠妹を
横河成に換下のふれもあり一代能治

大永その巻

包氏作

是が横河のふれと書

角より内より伊達

一包氏

地文丑年五月日

一包光 カミツ

系図に不見

角ノカニ遠方ノ小園をたぐり

○包光

一包光

系図に不見

包光

△大和保田系図秘候

ヤマトホウシマウ

画光

貞吉

中化ふえ子
刀部長司

其穴の下稿とのく仲ふを弄る
指し図の刀部指しふのくは角
心え一文字をとりきくとも同

貞宗

下上
貞吉子

先代貞吉子

貞隆

貞吉子

貞光

貞吉子

女子

貞光

貞吉子

一貞吉下上他 後醍醐天皇とえ其の

大和保田系図に大和保田系図に
ろく保田系図に大和保田系図に

去る大刀も刀も是より又と懸けひるは
 刀をさしよりを差乃懸けめあり
 棟乃方又垂垂乃懸けめあり又入
 同棟必満むしりしも懸くは他は懸く
 懸目われは懸りたる又帳乃あり
 ざりもあり

大和国住藤原貞吉

藤原貞吉

角ノ水田より伊枝

金五藤貞吉

金五藤貞吉

大和国高市郡住人たむつ村藤原貞吉入
 角ノ内を 藤の伊枝

一 貞吉 貞吉未落かりて多し 忠核
 恒伊先乃切忠乃懸ハ角ナリ同を

力玉

金王丸

一至

力

如子

登之久

一千半院

室中上

ふえ乃以てその力のとこ

反るく指ひり丸孫小使りて地をあ

く前うて座敷小使と殿入る候おれ

るべく系と焼入ふ所乱ぬゆるぬる

まめふ白く壁に張るなり切せん中地

張乃張何れん空めりて随然松園の

心ありふ他地くくくくくくを指ひ

へる是乃張るなり中心の君なり

乃事ち力ハ張のり座敷より平の戸

横なり但勝りて二と寸候なり忠

光へ大車通なりともふも院ハ端と打

するに祖父親孫乃んやうに院乃ま

小宮ひる忠乃張松角力く内を

かめめんといふなり小なり丸孫

乃くく見たりえハ割りていふなり

とわくをめりるやうに小なり但執りて

る

肉

徳文。千手院

行信中 徳肉アリ

。行信

角ニ小肉アリテ様ナリ 角
徳文千手院ニテ子孫公ニテ院ニテ事ナリ

。行信

角ニ小肉アリテ様ナリ

行信

行信ニテ 千手院。

徳角ニ小肉アリテ様ナリ

行信ニテ小肉アリテ様ナリ 徳文ニテ小肉アリテ様ナリ
本力多面目要定の上ニテ事ナリ 角ニ小肉アリテ様ナリ

千手院。

徳角ニ小肉アリテ様ナリ

行信ニテ

千手院 徳角ニ小肉アリテ様ナリ

。千手院

徳角ニ小肉アリテ様ナリ 行信ニテ小肉アリテ様ナリ 徳文ニテ小肉アリテ様ナリ
国要定の上ニテ事ナリ 千手院ニテ事ナリ 徳文ニテ小肉アリテ様ナリ

旅

蘇角

聖學

康弘 康章

定身力

卷之五

是行信乃類ハカニ重ハ千ノ院ニ孫
 入兼重ト云キリハ信ハ重ハ千ノ院ニ孫
 行信ト重ハ千ノ院ニ孫ハ重ハ千ノ院ニ孫
 信ト重ハ千ノ院ニ孫ハ重ハ千ノ院ニ孫
 信ト重ハ千ノ院ニ孫ハ重ハ千ノ院ニ孫
 信ト重ハ千ノ院ニ孫ハ重ハ千ノ院ニ孫

卷之五

牛手院是重

存正祿二角五分五厘

大德院

是言

下

千牛院是重

三
定
量
公
式

角三ノ内ノイ

角心西王母

卷之四

目錄

學士院

定章

史里



力王

系思ニヨリ。因果改訂ノ人福派

力王

角ノ小肉カクハシテ

力王

角ノ小肉カクハシテ

金王ノ文ノ教ヲカキテ角ノ小肉カクハシテ

国吉作。

角ノ小肉カクハシテ

金王丸

國吉系思ニヨリ

金王丸 國吉。

角ノ小肉カクハシテ

角ノ小肉カクハシテ。面ノ小肉カクハシテ。

金王丸

國吉



金王丸

國吉作。

角ノ小肉カクハシテ

國吉

角ノ小肉カクハシテ

義弘

下

系思小肉

。是派之法

義弘

旅。

卷之二

皇朝

康弘 康重

定考方廣正人

五

其行信方類ハカキト重弘千ハ院々疎
 心兼重ト云キハ信ハ重弘ク一類ト大照
 行信ト重弘ト云キハ院々類又赤松
 ナクモ其重弘ト云キハ院々類又赤松
 信ト云キハ院々類又赤松
 ナクモ其重弘ト云キハ院々類又赤松

卷之五

○ 千手院是重

夜半移步一角小四至五換下



是重

下
。 千年院是也

定重 量 びん

角公西生

角子不肉之介

卷之四

卷之四

目錄

卷之三

文里



力王

系

[illegible]

力王

角二肉一之二堅一



力王

謝月之函致江公廷選

金五子之秋芳華之國以爲
秋
君
吉
作。

困古作。

角ノ下

金王丸

國志系圖

金匱要略

蘇州府志

角う戸横下袴のかゝ面とれり
又うねもすけり

金玉

卷之四

金鑑

因立作。

角ノ心肉ヲ切

國書

角ノ小肉ヲテテ

義弘

米畧小引。是法之法

義弘

...

大智度論二郡子手院義於

一 倭吉 系三十一

たぐりて 大和持よりまゐる信をいふなり

也吉

肉之と 肉

一代ち
他吉と

一 倭國 系三十一

中の銅屋冬ふえ

一 國信 系三十一

いふ國大和をいふなり

長谷部國信

魚ノ小肉なり 伊日

一行光 大和系三十一 一代源名

。行光

魚ノ小肉なり 伊日

一 定利 大和系三十一 一代源名

定利。

魚ノ小肉なり 伊日

國永 大和系墨方一 延同 元晉比

國永 角ノ小肉ヲ鉗横 切 一代解

未行 大和系墨方一 一代解

未行 角ノ小肉ヲ鉗横

延吉 大和系墨方一 〇花墨流文保法

延吉 角ノ小肉ヲ鉗横 〇花墨流文保法

利光 系墨方一

利光

角ノ小肉ヲ鉗横

長光 下之 花墨流文保法

長光

長光

角ノ小肉ヲ鉗横

友則

〇友則

和州國分寺

系墨流文保法

和州國分寺住

一代解

角ノ小肉ヲ鉗横

一 吉行 一代源治

九とみしる

吉行。

公家の名と吉とありて

二 時未 一代源治

大和國住人時未作

三 重則 一代源治

重則。

四 長國

長國。

五 長吉

大和國吉行。三護門家長吉作

△今多物之系系源秘後

系系三武中と号して武中の四
入銘於大和の国ありて
系系と引名し系系の国を
と云ふは武中と云ふ

國光 クニミツ

國房

國貞

國久

國次

國久

國真

國房

國弘

國長

國友

國次

國吉

國則

女子

友久

國宗

辰子中修

友久

國宗

友童

國森

平國

一國光

中書
國光

角之抄四

宇多國亮
角三ノ内ナリガ事也

一 國光

宇多國房
角三ノ内ナリ伊豆也

一 國友

宇多國友
角三ノ内ナリ伊豆也

一 國長

宇多國長
角三ノ内ナリ伊豆也

一 國友

宇多國友
角三ノ内ナリ伊豆也

一 國宗

宇多國宗
角三ノ内ナリ伊豆也

角三ノ内ナリ伊豆也

宇多國宗
角三ノ内ナリ伊豆也

一國久

一宗友 系西 宗友

宗多國次

宗友

一國安

宗多 系西 宗友

國安

宗友

一未國

其國房のほろ

極元三

未國

未國

古今諸家合類大全上終

年 何 自 亦 能

月 天 平 王 乃 能 記 心

見 月

一 集 邦 乃 能 記

中 乃 能 記

夜 回 路 亦 記

此等仿朱自清之體
居之平王乃此等心

月元月

三
六
一
七
八
九
十
十一
十二
十三
十四
十五
十六
十七
十八
十九
二十
二十一
二十二
二十三
二十四
二十五
二十六
二十七
二十八
二十九
三十

此等仿朱自清之體

